

全人代から見る2025年の中国人民解放軍



(20250307全人代軍・武警代表团全体会議)

2025. 3. 21

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

※ 本書の無断転載、複写、複製を禁じます。
衛星画像の使用については著作権の関係上、別途お問い合わせ下さい。

項 目

- 1 軍への指示等からみる2025年の重視事項
 - 年度開始時の国防部記者会見
 - 春節前の高官部隊視察
 - 全人代軍・武警代表全体会議
- 2 2025年の軍の目標
- 3 日本への影響

中国軍への指示と訓練サイクル（イメージ）

年度開始時の国防
部記者会見

春節前の
部隊視察

軍・武警代表
全体会議

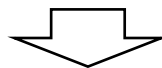
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
行事	訓練開始式	春節 (年により変化)	全人代		労働節			建軍節		国慶節		年末検閲
人事		上半期徴兵申込	教育隊入隊 春季退役	部隊着隊		部隊着隊		下半期徴兵申込	秋季退役	教育隊入隊	部隊着隊	年末退役
訓練	昨年度の評価 各個訓練	指示に基づく訓練始動 部隊訓練大隊級		旅団級 転地・対抗・実射訓練				戦区级	中央軍委統制		補備訓練	年末検閲

訓練最盛期

成果確認

年度開始時の国防部記者会見：訓練重視事項の比較

	2024年（1/12）	2025年（1/17）
1	基礎訓練	現実の脅威に則した 統合訓練 ・ 訓練による抑止力 を発揮
2	対抗訓練	基礎訓練・合成訓練 ・ 全面的施行の新基礎訓練大綱や全軍合成訓練現地会議の成果に準拠
3	統合訓練	新装備・新領域（無人装備・AI等）の訓練 ・ 新たな戦闘力の造成
4	科学技術（無人装備・AI等）を活用した訓練	科学技術を活用した訓練 ・ オンライン訓練の活用



2025年の訓練の重視事項

- 1 台湾侵攻を想定した**統合訓練**が更に活発化。台湾独立**抑止の名目**で訓練項目・範囲等の**烈度が上昇**
- 2 全軍訓練現地会議や大綱制定を経て訓練基準が統一化、**各部隊の訓練指導が効率化**され、部隊の練度が向上
- 3 逐次部隊に配備中の**新領域関連装備の訓練**を本格的に開始

春節前部隊視察：視察時の訓示の比較

	2024年	2025年
習近平 中央軍委 主席	天津警備区	北部戦区機関（瀋陽）
	<ul style="list-style-type: none"> 天津部隊の洪水災害派遣を慰労 建軍百年奮闘目標実現へ努力 	<ul style="list-style-type: none"> 6コ戦備当直部隊の任務執行状況をリモート視察 全軍が戦備当直を強化し、不測事態に適時適切に対応すべし
張又俠 中央軍委 副主席	陸軍第82集団軍某旅団 空軍航空兵某師団（北京）	情報支援部隊某部
	<ul style="list-style-type: none"> 新時代の戦備・戦闘を探求し、建軍百年奮闘目標実現へ努力 基礎訓練の新様式を推進し、合成訓練の在り方を探求 	<ul style="list-style-type: none"> 党の政治主導及び訓練・戦備を強化し、建軍百年奮闘目標実現へ努力 腐敗・不正への厳正な対処
何卫东 中央軍委 副主席	武警北京総隊某支隊 北京衛戍区某連隊	空軍某レーダー部隊（北京）
	<ul style="list-style-type: none"> 党と人民の賦与した任務を完遂し、建軍百年奮闘目標実現へ努力 全隊員による訓練強化 	<ul style="list-style-type: none"> 建軍百年奮闘目標実現へ努力し、党と人民の賦与した任務を完遂 新質戦闘力建設を強化

2025年の部隊運営の重視事項

- 迅速に戦時に移行できるよう戦備を強化、何時でも台湾侵攻できる態勢維持
- 新質戦闘力（宇宙・サイバー等の新領域能力をネットワークやAI等でシステム化した多元的戦闘力）の整備
- 党、即ち習近平の指示を徹底。（反対勢力は反腐敗の名目で更迭される可能性も）

春節前部隊視察：リモート視察部隊

南部戦区陸軍某旅団任務部隊



中部戦区空軍
地对空ミサイル某大隊



鄭州聯勤保障センター
車両輸送某連隊第2大隊



東部戦区海軍
沿岸ミサイル某連隊当直分隊



軍事宇宙部隊
早期警戒レーダーサイト



武警チベット総隊
シガツツェ支隊勤務第3大隊



(資料源：中国軍網20250124に部隊名を追記)

全人代軍・武警代表全体会議：位置付け

- 全人代に参加する軍・武警の代表による全体会議であり、制服組トップの軍委副主席（張又俠上将）が主催。
- **習近平**は2013年3月に中華人民共和国中央軍委主席に就任して以来、全人代開催時に軍代会議に出席、**重要講話**を実施
- 2022～25年は**部隊等の代表6名**がそれぞれのテーマについて**発表**
- 会議終了後、全軍にて習主席重要講話学習会を展開し、**末端まで意図を徹底**

- 全軍の主要幹部・優秀隊員が一堂に会し、**最高指揮官から年度の指針を指示**される重要会議
- 講話や代表の発表は軍の**1年間の重視事項**を反映

学習会の状況 （出典：軍事報道20250309）



全人代軍・武警代表全体会議：重要講話等の比較

2024年会議の概要

習主席の重要講話	代表の発表テーマ	代表の所属
① 使命の自覚を強化し、改革刷新を深化 ② 新領域における戦略能力の向上	① 海洋状況把握能力構築 ② ネット空間防御能力向上 ③ AIの活用推進 ④ 宇宙資源の統一計画・管理・使用の強化 ⑤ 新領域の標準汎用化の強化 ⑥ 無人作戦能力構築と運用の刷新	① 海軍 ② 戦略支援部隊 ③ 南部戦区 ④ 戦略支援部隊 ⑤ 軍事科学院 ⑥ 陸軍

2025年会議の概要

習主席の重要講話	代表の発表テーマ	代表の所属等※
① 質の高い発展を実現 ② 軍隊建設第14期5か年計画を成功裏に達成	① 武器装備試験評価アセットの計画調整 ② 計画の実行管理の刷新 ③ 経費使用管理の効率化向上 ④ 軍需産業生産能力の強化 ⑤ 国防陣地建設の推進 ⑥ 新領域資源の有効活用	① 作戦試験基地 ② 国防科技大学 ③ 後勤保障部 ④ 空軍政治委員 ⑤ ロケット軍 ⑥ 空軍

※ 代表の所属等は人名・制服等からの推定

全人代軍・武警代表全体会議：2025年の重視事項

重要講話

- ① 質の高い発展
民間の優れた力と資源を活用し、**新質戦闘力**の発展を加速させる
- ② 軍隊建設第14期5か年計画の達成
 - 5か年計画では少なからずの**矛盾・問題**に直面
 - 進捗と質、コストと効果、全体と重点、発展と管理、計画執行と能力形成の関係を**調整**し、かつ監督・監査・汚職対処を強化する
 - **建軍百年奮闘目標**を期限内に達成するために5か年計画を**完遂**

代表発表

- | | | | |
|-----------------------------|---|---|--------------|
| ① 武器装備試験評価アセットの 計画調整 | } | → | 5か年計画の問題点 |
| ② 計画の実行管理 の刷新 | | | |
| ③ 経費使用管理 の効率化向上 | | | |
| ④ 軍需産業生産能力 の強化 | → | | 民間技術の活用 |
| ⑤ 国防 陣地建設 の推進 | → | | ICBMサロ建設等を重視 |
| ⑥ 新領域資源 の有効活用 | → | | 新質戦闘力の強化 |

- 5か年計画目標達成に至る**計画執行が遅滞**と認識。あと2年の期限を念頭に**執行要領の改善**及び問題発生の一因である**汚職への対処**を継続強化
- 新領域分野は継続して重視、この際**民間技術・アセット**を活用
- 米サロと同基数の**ICBMサロ**の2027年までの運用開始を目指し、建設を加速

ICBMサイロ建設：サイロ群とワシントンDCの位置

哈密

803.4km²

サイロ数：110

哈密サイロ群

玉門サイロ群

杭錦サイロ群

約11,000km

約11,200km

約11,200km

ワシントンDC

玉門

438.9km²

563.2km²

サイロ数：120

杭錦

688.8km²

サイロ数：70~80

全人代代表として発表：
崔道虎一級軍士長（准尉）
・塵土舞う山奥で大々的に
ミサイル陣地を建築中のロ
ケット軍某旅団所属



2025年の中国軍の目標

『第 14 次五カ年計画』の国防関連目標（抜粋）

機械化・情報化・知能化の融合的発展を加速、訓練・戦争準備を全面的に強化し、2027年の建軍百年奮闘目標達成を確実にする

- 戦略的能力及び新領域・新質戦闘力を拡大し、ハイレベルな戦略的抑止と統合作戦システムを構築
- 海洋、宇宙、サイバー空間、バイオ、新エネルギー、人工知能、量子科学技術等の分野における軍民統一発展を強化

		2021	2022	2023	2024	2025
5 カ 年 計 画 間 の 重 点 実 施 事 項	訓練	『新型軍事訓練体系構築に関する決定』		『全軍基礎訓練現地会議』	『全軍合成訓練現地会議』	「統合訓練による抑止力」 ⇒ 台湾周辺での訓練の常態化・強硬化
	戦備		『国防軍隊改革検討会』 ⇒ 組織・制度改革から戦備改革へ移行			「全軍の戦備当直態勢強化」 ⇒ 迅速に戦時に移行、速戦即決できる態勢構築 『内務条例』『紀律条例』改訂 ⇒ 戦時の法規整備
	新領域				「新領域の戦略能力向上」 『情報支援・軍事宇宙・サイバースペース部隊新編』	「民間技術を活用し、新質戦闘力建設を強化」 「新領域・新装備の訓練」 ⇒ 新領域の研究開発から運用へ逐次進展

基礎から統合訓練まで積上げ

全部隊・機関の戦備態勢構築

導入→訓練

2025年の活動：3コ条例の改訂

2025年2月14日、中央軍事委員会はそれぞれ改訂された「中国人民解放軍内務条例」、「中国人民解放軍紀律条例」、「中国人民解放軍隊列条例」を公布し、4月1日から施行するとした。

中央軍委訓練管理部の説明によると、今回の改訂の概要は以下の通り

- 今回の3コ条例改訂は2018年以来であり、新たな情勢・任務に以下のように対応したもの
 - ① 習近平強軍思想の貫徹
 - ② 戦争準備に焦点
 - ③ 軍事政策制度革への適応
 - ④ 新たな情勢・問題への対応

- 「内務条例」
各級人員の戦争準備における職責、部隊の戦備態勢保持の規範等を改訂
- 「紀律条例」
戦時の論功行賞や戦場における作戦規律維持・処分等を細分化・改訂
- 「隊列条例」
新装備に関する規定や指揮等を追加

2025年の活動：東部戦区海空軍による台湾周辺の戦備警戒パトロール

元宵節の2月12日、東部戦区は台湾周辺で海空軍による戦備警戒パトロールと訓練を実施。

空軍はJ-10C戦闘機、H-6K爆撃機が参加。

海軍のジャンカイ2フリゲート艦「淮北」は、並走する台湾海軍濟陽級フリゲート「宜陽」に「中国台湾宜陽艦、こちらは中国海軍淮北」と呼びかけ、元宵節の祝いの挨拶を述べた。

同時に、**戦備警戒パトロール時は常に砲弾は全装填し、射撃システムも発射準備状態で何時でも射撃できる状態**であると、CCTVの取材に明らかにした。

中国淮北艦（手前）から見る台湾宜陽艦（奥）



台湾宜陽艦に呼びかける中国淮北艦の海軍人



（出典：軍事報道 20250212）

2025年の活動：空軍部隊の訓練から戦争移行訓練

某日早朝、空軍航空某旅団が訓練準備を完了していたところ、突然戦闘警報が鳴り、上級指揮所から直ちに訓練から戦争に移行、目標空域にて任務遂行の命令が発せられた。

実弾を搭載した当直機編隊2機が直ちに離陸し、戦闘任務完了後帰隊、検討会等が実施された。

訓練から戦争への移行訓練に参加した当直機2機



(出典：微信・人民空軍20250212)

部隊の戦争準備態勢の強化、特に奇襲侵攻からの「速戦即決」能力向上のための訓練の刷新及び軍内部の意識改革を推進

2025年の中国軍の方向性と日本への影響

1 中国軍の方向性

○ 全般

建軍百年奮闘目標とは2027年までの戦備態勢の確立、即ち台湾侵攻準備の完了を示すと思われ、計画の遅れを取り戻すため、**戦争準備を加速**
更に新領域においては民間技術を利用した戦力の強化

○ 台湾～日本周辺

- ◇ 常態化させている軍・海警のプレゼンスに加え、**民間アセットも利用**
- ◇ 台湾の独立を「抑止」するため、**台湾により近くより激的な演習を実施**
- ◇ **訓練と実戦の境界を曖昧化**し、台湾を物理的・心理的に疲弊

○ 対米

- ◇ 核戦略の「**相互確証破壊**」への転換を企図し、ICBM群の整備推進

2 日本への影響

○ 中国の対日企図

新領域での優越及び核戦力強化による日米拡大抑止態勢の形骸化により、台湾侵攻時の日本の防衛能力発揮を弱体化。更に速戦即決能力強化により**日米に介入のいとま**を与えず

○ 日本の採るべき対応

- ◇ 中国の侵攻準備完了を見据え、**戦略三文書での2027年までの防衛力整備目標**に注力
- ◇ 中国の「速戦即決」能力向上に対し、**更なる即応態勢能力・制度の整備**
- ◇ 中国の新領域優越を阻止するため、官民連携による**技術力向上及び技術流出阻止**
- ◇ 米中核戦力パリティ時代に備え、日米拡大抑止協議の強化を含めた**核抑止の議論**